



2019年度 第1回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2019年5月～6月)のポイント

(1) 概要：

シラスの漁獲量は紀伊水道では平年並み、もしくは平年を上回り、それ以外の海域では平年を下回る。

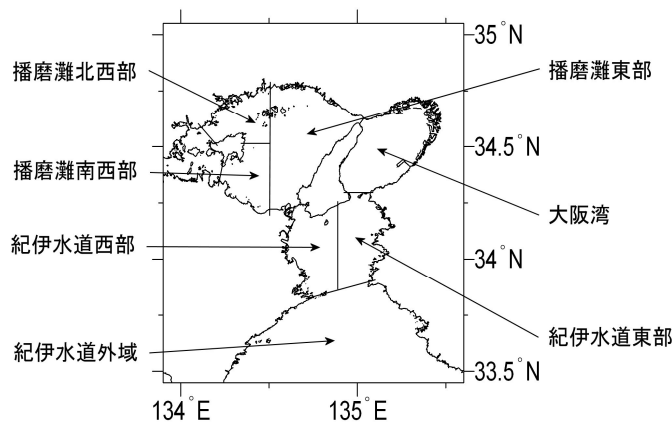
(2) 海域別：

紀伊水道東部のシラスは好漁であった前年並み。

紀伊水道西部では好漁であった前年を下回り、平年並み。

大阪湾・播磨灘東部では平年並みであった前年を下回る。

播磨灘南西部・播磨灘北西部では不漁であった前年並み。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所
担当：業務推進部 加藤、河野
資源生産部 本田、河野
電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2019年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2019年5月～6月）

シラス（本年春季発生群）

紀伊水道東部のシラスは好漁であった2018年並み。

紀伊水道西部では好漁であった2018年を下回り、平年並み。

大阪湾・播磨灘東部では平年並みであった2018年を下回る。

播磨灘南西部・播磨灘北西部では不漁であった2018年並み。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～図3）、2008年～2017年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2018年1月～2019年4月）及び今後の見通し（2019年5月～6月）についての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2018年の漁獲量は前年の62%、平年の61%であった。2018年5月～6月の漁獲量は前年の95%、平年の147%であった。2019年1月～3月は平年並みであったが、4月は低調に推移している。紀伊水道外域東部では2019年1月～3月は好漁であり、4月も好調である。

紀伊水道西部（徳島県側）では2018年の漁獲量は前年の58%、平年の82%であった。2018年5月～6月の漁獲量は前年の56%、平年の118%であった。

大阪湾（大阪府）では2018年の漁獲量は前年の78%、平年の62%であった。2018年5月～6月の漁獲量は前年の79%、平年の95%であった。

大阪湾（兵庫県）では2018年の漁獲量は前年の106%、平年の80%であった。2018年5月～6月の漁獲量は前年の106%、平年の129%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2018年の漁獲量は前年の91%、平年の70%であった。2018年5月～6月の漁獲量は前年の96%、平年の123%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2018年の漁獲量は前年の91%、平年の77%であった。2018年5月～6月の漁獲量は前年の27%、平年の45%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2018年の漁獲量は前年の62%、平年の61%であった。2018年5月～6月の漁獲量は前年の30%、平年の42%であった。

2019年の瀬戸内海東部海域における春季シラス漁は4月24日現在、紀伊水道東部以外では始まっていない。

(2) 日向灘～紀伊水道での卵稚仔調査結果

中央水産研究所、瀬戸内海区水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況に関する報告によると、2019年1月～3月には日向灘～紀伊水道外域で産卵が認められ、合計産卵量は7兆粒（前年比444%、平年比12%）であった。

和歌山県水産試験場と徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課が2019年2月～3月に行った定線調査では、紀伊水道外域での卵密度は2月に0.2粒/m²（前年比16%、平年比3%）、3月に3粒/m²（前年採集なし、平年比18%）であった。仔魚密度は2月に0.4個体/m²（前年採集なし、平年比17%）、3月に2個体/m²（前年採集なし、平年比27%）であった。紀伊水道での卵密度は2月に0.2粒/m²（前年比95%、平年採集なし）、3月に4粒/m²（前年採集なし、平年比195%）であった。仔魚密度は2月に0個体/m²（前年採集なし、平年0.02個体/m²）、3月に0個体/m²（前年採集なし、平年3個体/m²）であった。

(3) 黒潮流路の現況と今後の予測

4月24日現在、シラスの来遊に影響を与える黒潮流路は、都井岬～足摺岬でやや離岸、室戸岬でかなり離岸、潮岬で著しく離岸している。海面水温衛星画像によると、室戸岬～潮岬沖で黒潮は南東に大きく蛇行しており、両岬沖が大蛇行の西端付近にあることが確認できる。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産研究・教育機構運用の海況予測システム FRA-ROMS の予測結果を併せて考慮すると、5月～6月における室戸岬～潮岬の黒潮は離岸して推移すると予測される。

(4) シラス漁況（本年春季発生群）の見通し

紀伊水道の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、及び外海からの輸送条件に依存する。日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は平年を下回っている。また4月24日現在、黒潮は潮岬で著しく離岸しており、5月～6月の黒潮流路の変動予測から、外海からの輸送条件は悪いと考えられる。しかしながら4月における紀伊水道外域での漁況は比較的好調であり、今後はこれらの群れが紀伊水道で漁獲されると推察され、紀伊水道東部では好漁であった2018年並みと予測される。例年、本漁期を通して漁獲のある紀伊水道西部においてもシラスの外海からの輸送条件は悪いと考えられる。また、春季のシラス漁獲量と関係が深いと考えられる日向灘及び紀伊水道外域におけるカタクチイワシ親魚の漁獲量から判断すると紀伊水道西部では好漁であった2018年を下回り、平年並みと予測される。

大阪湾の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び外海からの輸送条件に依存する。日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は2018年、平年を下回っている。また4月24日現在、黒潮は潮岬で著しく離岸しており、5月～6月の黒潮流路の変動予測から、外海からの輸送条件は悪いと考えられる。紀伊水道や紀伊水道外域での漁況を含めて判断すると、大阪湾では平年並みであった2018年を下回ると予測される。

播磨灘の春季シラス漁も主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び外海からの輸送条件に依存する。上述の産卵状況、漁況、及び外海からの輸送条件から判断すると播磨灘東部では平年並みであった2018年を下回り、播磨灘南西部・播磨灘北西部では不漁であった2018年並みと予測される。

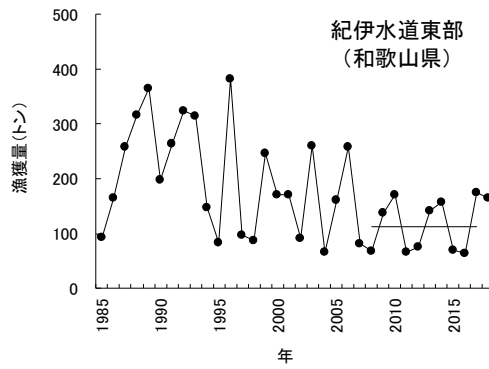
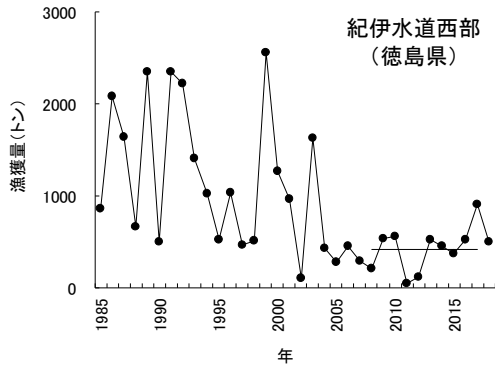


図1 紀伊水道西部（徳島県側）、及び紀伊水道東部（和歌山県側）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

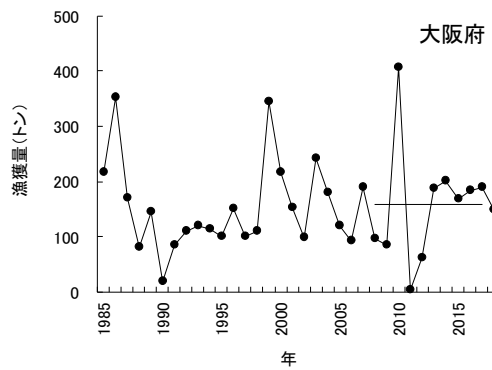
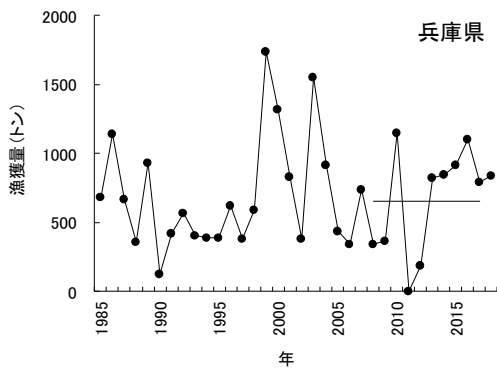


図2 大阪湾の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

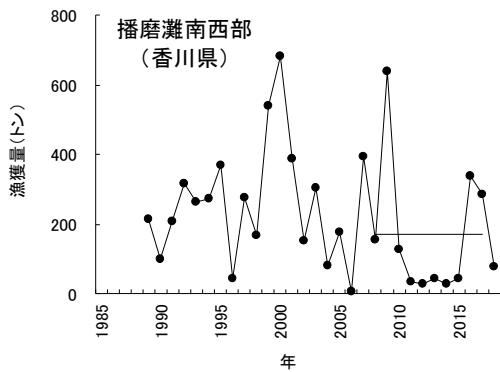
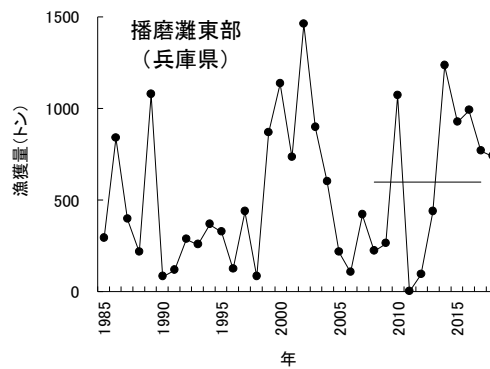
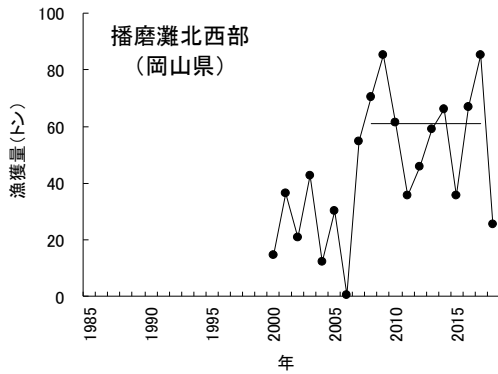


図3 播磨灘北西部（岡山県側）の標本船における5月～6月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側）、及び播磨灘南西部（香川県側）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p> <p>香川県水産試験場</p>	<p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所</p>
--	---